る。

＜資料3　上郷よい子の1，2，さんすうの実際＞

上郷よい子の1．2さんすうの実施について
1991　7・5（金）
指導研究部会

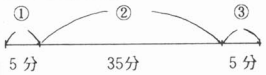
基礎的・基本的事項の定着を図るための方策として，学級の枠を外し，個人差に応じたドリル学習を行っていく。

(1)　日　時　月曜日の6校時（45分）
(2)　対　象　3年生以上
(3)　問題集　「上郷よい子の1．2さんすう」（昨年度作成）
(4)　進めかた
　○　それぞれの前学年の復習から始めていくが，児童の実態に応じてスタート地点は違ってもよいものとする。
　○　児童の能力に応じて，どんどん先へ進んで行くようにする。まちがったりつまずいたりした問題については，やりなおしや補充問題を出すなどして，確実に理解させてから進めていくようにする。
　○　学習の足跡がわかるように，「がんばり表」のようなものを作成し，学習に対する意欲を高めるとともに，良い意味での競争心を育てていきたい。
(5)　指導者および学習内容による学習場所

指導者	芥川　鈴木	斎　藤	石　田	八　巻	渡　部
場　所	1　年	3　年	4　年	5　年	6　年
内　容	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年

＊児童の実態により，人数が特定のクラスに集中する。

45分間の流れ



①　はじめ……前時のノート，がんばり表を見て，自分なりの目標を立てる。

②　ドリル学習
◦自力で学習→自己採点
　できたら→次のページに進む
　まちがったら→まちがったところをやり直す
　・個別指導
　・補充問題
　・教科書で調べる
◦本時の目標に達した時
　・まちがったり，わからないでいる友達に方法のヒントを教える。

③　反省
◦ノートに本時の感想を記入
◦「ガンバリカード」への記入
　※　座席なども，同じページを学習している児童をペアにしたり，グループにするなど工夫していく。

「学習のまとめ方」の工夫としては，スケール表を用い，自分の言葉で本時のまとめをさせると同時に，自己評価させたことによって，理解したことと理解できなかったことが自覚でき，自分の課題を明らかにつかむことができるようになった。

また，「上郷よい子の1，2，さんすう」の実践では，同質の能力をもつグループの中でよい意味での競争意識が芽ばえ，学力も向上してきている。さらに，グループ学習やリトルティーチャーを経験することによって，自分の考えが深まると同時に学習意欲が高まってきた。

4．おわりに

以上のように，授業研究を中心とした共同研究と日常の授業における個々の研究を通して実践を積み重ねてきた。

その結果，児童においては，解決の見通しをもって自力解決にあたるといった問題解決的学習の仕方が身についてきた。さらに，反応予測をもとにした個別的な指導・援助により，下位児ばかりでなく上位児も意欲的に学習に取り組み，互いに学び合おうとする態度が育ってきた。

また，教師側の変容として，子ども一人一人の自力追究を大切にした指導を心がけてきたことにより，教える授業から学びとらせる授業へと質的転換を図ろうとする機運が高まってきたことがあげられる。この機運をより確かなものとするために，今後も実践を重ねていきたい。